

第1分科会	創造活動の基礎・基本	学年	小学4年
提案者	玉村町立中央小学校 櫻井理絵子		

テーマ イメージを広げ、思いをもって進んで表現できる児童の育成 ～発想時にジャムボード、製作時に基本的な成形の実演指導を取り入れて～

① はじめに

図工の授業は、関心意欲も高く、進んで学習できる児童が多い。しかし、日々の授業では進んで表現できずに苦しんでいる児童もいる。その原因はどこからくるのかというと、多くは作りたいものが浮かばない、イメージがなかなか捉えられないことにある。だから、作りたいもののイメージを明確にできれば、思いをもって進んで作業できるようになると考える。そのために、まずは発想する段階で友達との意見交流を取り入れ、イメージを広げさせる。また、経験の少ない材料や作業工程の製作では、製作へ見通しがもちにくい。基本的な作り方、(粘土の成形方法)を指導することによって、見通しをもち、進んで表現できるようになり、結果的に効率的に作業が行えると思う。また、参考作品があるとさらに、取り組みやすいだろう。

以上のことから、イメージを広げ、思いをもって進んで表現するために発想する段階に意見交流を、製作の段階の初めに基本的な作り方の指導を取り入れることに重点を置いて実践する。

② 実践の概要

(1) 題材の内容

本実践は、小学校4年生の「元気のおまもり」(立体)という題材で行った。この題材は、自分やみんなを元気にする形や色から発想し、粘土を使って表現するものである。おまもりということで、作品の一部をキーホルダーにして、持ち運べるように製作する。発想面では、タブレットでジャムボード(デジタルホワイトボードアプリ)を使って意見交流をすることによって、イメージを広げる。製作面では、紙粘土の色の付け方や接着の仕方、道具の使い方などを実演指導し、製作への見通しをもち、進んで表現できるようにさせる。

(2) 評価基準

- ・元気が出るような形や色を考えて、それに合わせた表し方を工夫してつくっている。
- ・形や色、組み合わせなどから自分の表現したいイメージをもって、表したいことを見つけている。
- また友達作品から、よさや表したいこと感じ取って、見方や感じ方を広げている。
- ・粘土で元気が出る形をつくることを楽しんでいる。

(3) 学習計画(6時間)

	時	児童の活動	教師の支援
導入	1	・『元気』という言葉からのイメージを広げる。ジャムボードを使って、共有する。 ・ジャムボードに書いたイメージから自分のイメージに合うキーワードを3～5つ選ぶ。	・ジャムボードの使い方、注意点を指導。 ・言葉、形、色についてイメージさせる。 ・友達の意見から発想したものも書き加えるよう指示する。 ・ワークシートを用意し、自分のイメージに合うものを選ぶ。(3～5つ)
	2	・選んだキーワードをもとにアイデアスケッチする。	・アイデアスケッチの例を提示し、見通しをもたせる。 ・形が分からないものはタブレットで調べて参考にさせる。
展開	3	・アイデアスケッチをもとに粘土で形成する。	・基本的な作り方を提示する。(絵の具を練り込んで色をつける、塊から引っ張り出して形成する、別に作った粘土の付け方、粘土べらの使い方) ・参考作品を提示する。
	4		
	5	・置いておくもの、キーホルダーにするものを作る。	
振り返り	6	・作品を鑑賞し合う。	・鑑賞の視点を明確にして、鑑賞させる。 ・鑑賞プリントを用意する。 ・プリントを使って意見交流をし、鑑賞を深める。

(ジャムボードで出した意見)

* 「言葉」「形」「色」に分けて意見を出した。

●「元気」という言葉から連想する言葉を書きましょう！



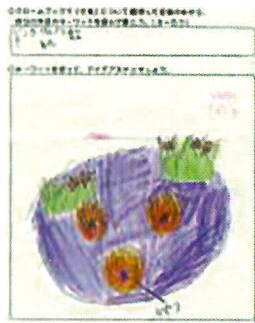
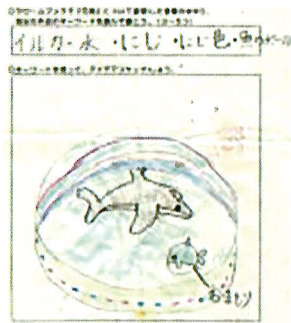
10. *Journal of the American Medical Association*, 2000; 284: 1012-1016.



・「元気」を感じる色は何ですか。



(キーワードとアイデアスケッチ)



(製作の様子)



(完成作品：海の中のイルカ)



(完成作品：ティラノの国)



(完成作品：植炎鳥)



③ おわりに

発想時にジャムボードを使って意見交流をしたことは、イメージを広げることに有効であった。キーワードを決めるところまでは、全員1時間以内にできた。キーワードが決まるとアイデアスケッチもかきやすかった。また、鑑賞でも友達の子の作品のイメージについてよく捉えられていた児童が多かった。アイデアスケッチで、形が分からないものも、タブレットで検索することで、進んで表現することができた。また基本的な作り方について実演指導をすることによって、製作に見通しをもって取り組むことができた。結果的に作業の効率も上がったと思う。

一方課題は、作品の大きさが少し小さい児童が多かったことである。色をつけながら形成していったので、粘土の量の配分が難しかったようである。中心となる形の大きさの基準を示せばよかったと思う。次回は、参考作品を使って、大きさの基準も示していきたい。